

街路空間における生活の場の演劇性について

— 台北市におけるパブリックスペースの探求その2 —

日大生産工 (院) ○今村 昂広 日大生産工 (院) 小暮 亮太
日大生産工 (院) 豊留 佑依 日大生産工 篠崎 健一

1. はじめに

台湾など東アジアの都市は、公共空間を生活の一部として使用し維持してきた。そのひとつに夜市（イェンシイ）がある。夜市は飲食物販などの店からなり、日常的に生活の場として利用されている。においや音、視界に入る看板など混沌とした場所は、人間味のある賑わいをつくりだしている。夜市はいくつかの種類に分類されるが、仮設的、演劇的、というキーワードに着目し、その特徴を有する寧夏路観光夜市を調査した。

2. 調査

調査は8月25日～9月7日に行った。

大きなテーマを「台湾における人々の生活と公共的な空間について探索する」とし、中国科技大学の先生方に台北市およびその周辺の街を案内していただき、台湾について理解を深めるとともに、現地にてご指導をいただきながら、目視観察および実測調査した。

2.1. 寧夏路観光夜市について

寧夏路観光夜市は、台北圓環から民生西路までの幅15m、長さ328mの路上に展開する市場である。（図1）街路の西側に商業空間、東側に小学校があり、街と夜市の関係性は他の夜市と異なる。寧夏路は日中、車が通行、駐車しており、市場と呼ばれるものを目にすることはできない。夕方以降、街路を自動車や歩行者の移動の目的に使うのではなく、移動の障害となるように屋台が集まり、夜市としてその姿を変える。（図2）

2.2. 空間の変容について

寧夏路観光夜市の場所は日中、道路として機能するため、市場は準備しなければならない。屋台は昼の間、夜市周辺に置いてあり、時間になると屋台を移動する。4時半頃から路上に集まりだし準備を始める。（図3）飲食の店は、必要な食材や流し台、飲食をするスペースを提供するために、屋台以外にもリヤカーにイスやテーブルなどを積み、運び込む店もある。店によるが、準備は複数人で行う。屋台、椅子、テーブル



fig. 1 寧夏路観光夜市周辺図



fig. 2 夜の風景



fig. 3 移動中の屋台



fig. 4a 電気と水道を供給する



fig. 4b 排水溝

など仮設的であり移動できるものにより展開され、領域を形成していく。店を営業するために必要な屋台の電気、水道は路上から供給される。屋台や流し台を運び込み、ホースや電源コードを路上に設置されたボックスに接続する。（図4）市場は仮設的であるが、路上にその背景となるインフラが整備されている。これは寧夏路観光夜市のひとつの特徴である。行政により、店の位置は決められており、毎日同じ店が同じ場所に開店する。5時過ぎにはほぼ全ての屋台が集まり、準備が整う。（図5）このようにして夕方

The Theater Nature of the Place of the Life in Street
— The Pursuit of the Public Space in Taipei Part2 —

Takahiro IMAMURA, Ryota KOGURE, Yui TOYOTOME and Kenichi SHINOZAKI

以降、街路は155台の屋台により、人が集う場に変容する。

2.3. 屋台の仕組み

屋台の基本機能として、移動するためのタイヤ、夜間の照明、商品の陳列、調理スペースなどがある。(図6)屋台の基本寸法は、5尺3寸×3尺4寸(おおよそ1600mm×1030mm)で、提供する品物の種類により、設備が異なる。展開する仕組みとして、飲食を提供する屋台の場合、通り側となる外側には、折りたたみ式の簡易テーブルを備えているものがある。内側には必要な設備や材料を収納する場所をもつ。屋根は日差しや雨よけのために、延長できる仕組みを持ち、屋台が建物と近い場合には、屋根を延長して接続することがある。

2.4. 移動しない屋台

全ての屋台が夜市に集まるわけではない。ある飲食店の前にある屋台は、移動する機構を持っているが移動しない。(図7)屋台が留まることで、その場所がパブリックスペースに変化した。屋台は、集合する数、動く、動かない、という具合に、段階的にその大きさや場所の性質が変化する。

3. まとめ

寧夏路観光夜市は、路上という日常の場が、屋台という人の手によって移動することができる小さな単位を集合することで領域をつくりだしている。屋台という単位が集合すると夜市になり、屋台が動かなくなると仮設的な飲食店になり、全く動かすことができなくなると建物になるという、段階的な形成の仕方が考えられる。屋台はその最小の単位ではないだろうか。こうして街路が夜市で占有された状態は、風景は台北市の特徴となり、台北市に住むだけでなく、その名が示す通り観光客にも良く知られている。街路という場所が移動のために使われる場所から、市場という場に、演劇的に変化することを調査した。小さな単位からなる夜市には、お金のない人ある人、様々な人が集まること、屋台が集合しつくりだす明るさがあること、オーナーの顔が見えること、人の力で領域をつくりだすことに魅力があるのではないだろうか。

舞台の上で繰り広げられるかのように、都市の街路で、演劇が毎日繰り返されている。

謝辞

この調査は中國科技大學の吳東昇先生、陳主惠先生、徐淵靜先生、周世璋先生、孫啓榕先生、陳玉燕先生、顏敏捷先生に台湾を案内していただくとともに、専門的な視点からご指導をしていただきました。ここに感謝の意を表します。



Fig. 5 変容の過程 (左：16時半頃、右：17時頃)



Fig. 6 屋台

Fig. 7 動かさない屋台

また、張宸璋君、魏宏展君、張美波さん、沈芸安さん、羅新琨君、林檻堙君には、通訳として同行していただき、学習、理解の助けとなったことを感謝しています。

参考文献

- 1) 坪井善道, 川岸梅和, 北野幸樹「環境と共生するコミュニティ空間の事例的分析-その2: 台湾・台北市を例として-」日本大学生産工学部第46回学術講演会概要 (2003)
- 2) 郭東潤, 斉藤伊久太郎, 湯寿旋, 北原理雄, 張翠萍「台湾台北市の公共空間利用と市場に関する研究 その1-12市場を対象として」日本建築学会大会学術講演梗概集 (2012)
- 3) 斉藤伊久太郎, 郭東潤, 湯寿旋, 北原理雄, 張翠萍「台湾台北市の公共空間利用と市場に関する研究 その2-寧夏観光夜市と建國假日玉に着目して」日本建築学会大会学術講演梗概集 (2012)
- 4) 斉藤伊久太郎, 郭東潤, 湯寿旋, 北原理雄「東アジアにおける公共空間利用と市場に関する研究 その3-台湾台北市の寧夏路観光夜市を事例として」日本建築学会大会学術講演梗概集 (2013)
- 5) 郭維倫「屋外商業密集地区における街路空間の利用形態に関する研究-台湾台北市の師大夜市, 通化と臨江夜市, 景美夜市及び台中的逢甲夜市, 中華路夜市, 精明一街を事例として」日本建築学会大会学術講演梗概集 (2012)
- 6) SHU CHANG, CHUN-HSIUNG 『TAIPEI UNVEILED』 Taipei City Urban Regeneration Office(2013)